

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	コロナ禍に小児看護学実習を行った学生の卒後評価 — 実習教育施設（静岡県立こども病院）との協働 —				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山下 早苗
	研究分担者	所属・職名	静岡県立こども病院・ 教育担当副看護部長	氏名	小澤 久美
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山下 早苗

講演題目	
コロナ禍に小児看護学実習を行った学生の卒後評価 — 実習教育施設（静岡県立こども病院）における他者評価について —	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p><u>研究の趣旨と目的</u></p> <p>WHOが新型コロナウイルス（COVID-19）感染症のパンデミックを宣言したのは2020年3月のことで、看護基礎教育に及ぼした影響は大きい。2020年度の本学看護学部3年生を対象とした小児看護学実習（2単位、90時間）は、患児への感染リスクを考慮しシャドーイング実習になり、三密対策上実習時間の短縮も余儀なく強いられ、12月以降はCOVID-19感染症の第3波到来により、臨地での実習を中止し学内実習に変更せざるを得なかった。2020年度に3年生であった学生は、2022年度に臨地で看護実践を行う看護師になった。本学で看護基礎教育を受けた学部学生の1割は小児を対象とする看護師を目指し、実習教育施設である静岡県立こども病院に就職していることから、本学小児看護学領域と静岡県立こども病院との協働・連携は必須である。そのため、コロナ禍に小児看護学実習を行った学生の卒後における評価を行い、実習教育施設である静岡県立こども病院と協働して卒後教育を検討することを目的に本研究に取り組んだ。</p> <p><u>成果及び今後の展望</u></p> <p>看護部教育委員会においてグループインタビューを行った。内容は、6ヶ月経過した新人看護師に対する他者評価であり、コロナ禍に看護学実習を行った新人看護師と、コロナ禍前の新人看護師を比較して自由に語ってもらった。コロナ禍に看護学実習を行った新人看護師に対する卒後教育プログラムでは、コロナ禍前の新人教育プログラムとは異なり、シャドーイングや集合学習を取り入れた教育期間を6ヶ月程度に渡って長期的に行い、夜勤や独り立ちの進度も遅らせたため、コロナ禍前の看護師と看護実践能力を一概に比較することはできなかった。なお、インシデント・アクシデント件数は例年と比べ多くはなかったが、先輩看護師の業務負担は大きく、入職から3年後まで中長期的に他者評価を行っていく必要があると評価を得た。今後の卒後教育への取り組みを検討し実施するに当たっては、看護実践能力に関する自己評価についても自記式アンケート調査を実施する必要がある、自己評価と他者評価をもとに、大学と実習教育施設が協働していく予定である。</p>	